

ことばだより



●目次

巻頭随筆 辞書には書かれていないことばの意味..... 今井むつみ 2

国語

特集 新学習指導要領における語彙指導と「情報の扱い方に関する事項」について

生活で活用する言葉と豊かな教養を表す言葉..... 矢澤真人 3

「読むこと」と「情報の扱い方に関する事項」をつなぐ「語彙」の指導..... 河内昭浩 4

「書くこと」と「情報の扱い方に関する事項」をつなぐ「文型」の学習..... 松崎史周 6

実践レポート 作者を見つめ、豊かに表現する児童..... 吉牟田幸子 8

書写

教育現場のユニバーサルデザイン「UDデジタル教科書体」と合理的配慮..... 高田裕美 12

辞書には書かれていないことばの意味

今井むつみ
慶應義塾大学 教授



©水谷充

母語についてもっている知識は、ほとんどが意識されません。子どもや外国の人がヘンな使い方をすれば、すぐにヘンだとわかります。しかし、自分がなぜそれをヘンだと思うのかはわかりません。母語におけることばの意味について、ことばで説明できる知識は、実は海面からちよつとだけ頭を出している氷山の一角のようなものです。私たちは、自転車に乗れても、脳の中でどのような情報が記憶されているから自転車で乗れるのかはわかりません。私たちのことばの知識の大部分は、そのようなことばでは説明できないけれど、実行することができ知識なのです。

私たちは、母語の単語の意味について、その複雑さをまったく意識しないで使っています。日常でいつも使っている単語、特に頻度の高い動詞ほど、使いこなすには氷山の海面の下の部分に豊かな知識が必要です。例えば、動詞の意味には、動詞の文法的な形が深く関わっています。他動詞なのか自動詞なのか。「に」や「から」などの助詞をいっしょに使うのか。主語や目的語は、どのような種類の名詞なのか（例えば、人や動物などの生き物なのか、人工物なのか、抽象的な概念なのか）。動詞を適切に使うためには、そのような知識が水面下ではたらいっていなければならないません。

母語話者がつ水面の下の知識は、まだまだあります。例えば、その単語がどのくらいフォーマルな感じを与えるのか。気の置けない友人といっしょに食堂に行き、話しているときに、「早くメニュー選定しろよ。」と言ったら、ヘンな感じがしますね。「選定って何？」と誰かに意味をきいたら、「選ぶことだよ」という答えが返ってくるでしょうが、「選ぶ」と「選定」は決して「同じ意味」ではないのです。つまり、ことばを適切に使うためには、単語が使われる文脈の情報は必須です。

いっしょに使われる語や文脈の情報はまた、意味の多義性にも深く関わっています。私たちはふだん、一つの単語の意味の広がりあまり意識しませんが、外国語に翻訳しようとして改めてそのことに気づきます。例えば、「許す」という動詞。高校生が、この動詞を含んだ文を英作文しようとして、とても混乱していました。確かに、和英辞典で「許す」を引いてみると、最初の語義が「許す」で、その下にさらに細かく【罪・過失を許す】forgive, excuse 【黙認する】tolerate 【見過ごす】overlook 【放免する】release などが対応する英単語として与えられています。「許可する」という語義もあります。英語では、allow, approve, grant, admitなどの単語群が挙げられています。英語話者はこれらをもったく意味が違う動詞とと思っています。日本語を母語としない人たちは、「このような多様な意味を一つの動詞のもとにまとめてしまう日本語ってなんなの？」という気持ちにもなると思いますが、私たちはそこに不自然さを感じず、あたりまえのように非常に幅広い意味を状況に応じて使いこなしているのです。

つまり、母語話者がつ単語の知識には、辞書には書かれていないさまざまな知識が含まれていて、それらの知識が水面下でどっしりした氷山を支えています。水面下の知識が豊富なほど、ことばを的確に使うことができますのです。

いまい むつみ 一九五九年東京生まれ。認知科学者。人が言語を学習する過程や、言語学習が思考に与える影響を研究している。探求型の学びの教育現場における実践にも取り組んでいる。主な著書に『ことばと思考』『学びとは何か』ともに岩波新書、『ことばの発達の謎を解く』（ちくまプリマー新書）などがある。

国語

■ 特集 ■

新学習指導要領における語彙指導と

「情報の扱い方に関する事項」について

生活で活用する言葉と豊かな教養を表す言葉



筑波大学教授

矢澤 真人^{やざわ まこと}

専門は日本語学および教科教育学。著書に『日本語情報修飾関係研究』（ひつじ書房）、監修に『新レインボー ことばが選べる辞典』（学研）などがある。

新学習指導要領では、「知識及び技能」の中で「語彙」の項目が取り立てられ、また、「情報の扱い方に関する事項」が新設されたことなどから、いっそうの語彙学習の充実が求められている。

国語科で扱われる言葉は、多くの人が日常生活の中で活用する言葉と、特定分野の豊かな教養を表す言葉との二つに大きく分けられるだろう。

日常的な活用が求められる言葉は、コーパスで調べると、分野による使用の偏りが小さく、全体的な使用頻度も多い。知っていること、使用することがあたりまえであり、使えないとデメリットを被るおそれもある。これに対し、豊かな教養を表す言葉は、仕事で用いる業界語や専門語、趣味の世界の言葉などである。コーパスでの全体的な使用の頻度は少なく、分野もかなり偏る。固有名詞やものの種別を細かく表す言葉など、百科事典に採録されるような言葉も多い。その分野に特有の多種多様な言葉の使い分けが求められるが、その分野に身近に接することでおのず

と習得が進んでいく。ゲーム好きなら、登場するキャラクターやツールの名称は、小学生でも覚えてしまう。身近に接することと興味の深さに関わるので、子どもと大人の差がないことも少なくない。一方で、その分野に興味がない人は言葉に接する機会もないし、知らなくてデメリットを被ることも少ない。

日常で活用される言葉は、発達段階により、展開が期待される言葉が異なる。文系の学術論文に出てくる漢語について、小・中・高の全教科の教科書での出現数を調べてみると、「学習」「観察」など、小学校でもそこそこ現れるものもあるが、大半は中学校教科書から高校教科書で爆発的に頻度が上がっている。「情報の扱い方に関する事項」で取り上げられるような「概念」「機能」「根拠」「認識」「論理」などの語は、いずれも中学校から高校にかけて、急激に習得するかたちになっている。しかも、これらの言葉は、単語を知っているだけでなく、実際の文章の中で適切に使用できるように、コロケーションや文型も含めて習得する必要がある。

小学校の段階では、過度に論理性を追求する必要はないが、他の言い方の可能性に注目させることはできる。自分が使った言い方には、ほかにどのように言いかえができるのか、よく似た言葉とどう使い分けられているのかなど、語彙と表現を結びつけて意識させることで、表現の多様性を感じ取り、表現を吟味する姿勢を身につける基盤が作られる。これが、中学校や高等学校での論理的な語彙の急激な習得を支えるのである。

「読むこと」と「情報の扱い方に関する事項」をつなぐ「語彙」の指導



群馬大学准教授
河内 昭浩

群馬県立館林高等学校、安田女子大学等を経て、現職。コーパスを活用した漢字・語彙や作文の指導、学習用語・学習語彙を用いた説明文の指導方法等を研究している。

1. 「読むこと」と「情報の扱い方に関する事項」をつなぐ「語彙」

新しい学習指導要領のもとでは、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の指導項目を関連させた授業づくりが求められている。

「知識及び技能」においては、新設された「情報の扱い方に関する事項」と、国語科の「学習内容の改善・充実」の一番めの事項にあげられている「語彙指導」に、多くの関心が寄せられていることであろう。

ここでは、「思考力、判断力、表現力等」の「読むこと」と、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」の双方に関連する「語彙」について述べる。新しい学習指導要領のもと、「読むこと」教材において、どの語彙を扱えば「情報の扱い方に関する事項」の指導につながるのか、また、どの語彙を扱えば「読むこと」の力をさらに高めることができるのか。具体的に提示していきたい。

2. 説明的文章における語彙指導——『ウミガメの命をつなぐ』(四下)

(1) 新学習指導要領との対応

教材『ウミガメの命をつなぐ』は、小学校第四学年下巻に掲載されて

いる説明的文章である。水族館の取り組みによって、ウミガメの生態が明らかになる様子が述べられている。水族館の研究の進捗が、時間の流れどおりではなく、時を行き来しながら記される。また、ウミガメの行動範囲が国内外に大きい。文章内で地理的・時間的な移動が大きく、読解は平易ではない。

「情報の扱い方に関する事項」の指導項目としては、「ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること」が適切である。時間、場所、できごとなどの情報と情報との関係を整理して、文章全体を捉える力を身につけさせたい。

そして、「読むこと」の指導項目としては、「ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」が中心になる。また、確かな文章読解力の育成を目ざし、さらに同じ「読むこと」の「オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと」につなげたい。

(2) 国語科学習用語と国語科学習語彙

ここでは本教材で指導したい語彙を、国語科学習用語、国語科学習語彙という二つの観点で提示する。国語科学習用語とは文字どおり、国語科の学習のための専門用語である。「情報の扱い方に関する事項」や「読むこと」の指導項目と対応する語彙である。一方、国語科学習語彙とは、教材の読解を深めるとともに、児童の日常生活における理解および使用につなげたい語彙である。

まず、国語科の学習用語である語彙として、以下のものがあげられる。

「国語科学習用語」 理由 事例 全体 中心 要約

これらは、学習指導要領の指導事項の文言の一部である。同時に、説明的文章を読解するために必要な「知識及び技能」でもある。例えば「理由」や「事例」について、『小学校学習指導要領解説 国語編』には、「理由は、なぜそのような考えをもつのかを説明するものである。事例とは、考えをより具体的に説明するために挙げられた事柄や内容のことである」(八五ページ)とある。『ウミガメの命をつなぐ』では、水族館がウミガ

メの保護に取り組むことになった「理由」が示され（第三段落）、そのうえで、保護の具体的な「事例」が数多く示される（第六段落以降）。単に文章の内容を把握することにとどまらず、説明的文章には、考えの前後に、「理由」や「事例」というものがある、ということを理解させたい。学習用語を児童の中に定着させることで、本教材の読解が、他の説明的文章の読解や、説明的文章を「書く」力につながっていく。

また、国語科の学習語彙として、次のような語を取り上げたい。

〔国語科学習語彙〕 つなぐ 絶滅 開発 保護 人工 放流

教材の題名は「ウミガメの命をつなぐ」である。「つなぐ」は、ここでは「長く続くようにする。絶えないようにする」（『広辞苑第七版』、以下同）ことを指す。一方、児童が日常的に使用する「手をつなぐ」の「つなぐ」は、すでに離れている手と手を合わせることである。題名の「つなぐ」とは意味合いが異なる。まず、この題名の「つなぐ」が、既知の意味や用法とは異なることを理解させたい。さらにこの「つなぐ」の語を起点として、説明的文章の構成や内容を捉えることができる。

本文第三段落冒頭に、「今、世界にいるウミガメは、全て、『ぜつめつのおそれがある動物』に指定されています」とある。そして「ぜつめつ」の語が脚注欄にあり、「ほろんで、たえること。」との語釈がつけられている。この「絶滅」の語は、題名の「つなぐ」と対義の関係にある。「ぜつめつのおそれ」があるから「つなぐ」のである。また「おそれ」とは、「よくないことが起こるのではないかという心配」であるが、逆にいえば、その悪いことはまだ起きてはいないことを表す語でもある。だから題名の「つなぐ」は、「手をつなぐ」のように、離れたものどうしをつなぎ合わせることでなく、途切れないようにすることであると説明できる。また、「開発」の語も同様に、「つなぐ」と対義の関係にある。「たまごを産むすなはまが開発によってうめ立てられたりして、数がへってきた」（第三段落）ことが、「ウミガメの命をつなぐ」ための研究につながっている。そして、こうした「絶滅」「開発」のように、「つなぐ」と対義の関係にあ

る語が使われている段落そのものが、筆者の主張と対義の関係にあることに気づかせたい。

筆者の主張と対義の関係にある第三段落のあと、第四段落は次の一文で始まる。「そこで、二十世紀半ばごろから、ウミガメをほごしようとしてさまざまな研究が世界中でさかんになりました。」「保護」とは、「気を付けてまもること。かばうこと」である。人間が、ウミガメを守ることが「保護」である。「保護」は、「つなぐ」と同義の関係にある。ともに、人間が、ウミガメの命を絶えないようにすることを指す。本文後半に出てくる「人工」「放流」も同様に、ウミガメへの人間の営みを指す。

この教材文は、「ウミガメ」の生態に対する、人間の営みについて書かれた文章である。そうした文章の内容の適切な理解が、語彙の適切な理解によって可能になる。

3. 文学的文章における語彙指導——『ごんぎつね』（四下）

誌面は残り僅かだが、文学的文章における語彙についても一言述べる。『ごんぎつね』の前半部分では、ぜひ、「しゃがむ」の語を取り上げたい（二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました）。二、三日、雨が降り続く中、じつとしゃがんでいるごんの姿と気持ちを想像させたい。しゃがんでいたからこそ、「雨が上がる」と、ごんは、ほっとしてあなからはい出る」のである。「雨が降り続く」という様子と、「しゃがむ」はい出る」という行動と、「ほっとする」という気持ちとが、みごとにつながっている。小学校中学年で扱う「様子や行動、気持ちや性格を表す語句」の確かな理解が、場面や心情の適切な読み取りにつながる。また、文章の中で、様子、行動、気持ち、それぞれの情報と情報とが関係づけられていることを、語彙を通じて学ぶことができるのである。

「書くこと」と「情報の扱い方に関する事項」をつなぐ「文型」の学習



日本女子体育大学講師 松崎史周（まつざき ふみちか）

長野清泉女学院中学・高等学校などを経て現職。専門は国語科教育。論文に「小学校『書くこと』の学習を支える文法の知識・技能」(信大国語教育2017年11月)などがある。

1. 「情報の扱い方に関する事項」の指標となる「文型」

新学習指導要領における国語科の内容は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」から構成されている。このうち「知識及び技能」に新設された「情報の扱い方に関する事項」は、「読むこと」「特に説明的文章」の学習で扱うことが考えやすいが、「話すこと」や「書くこと」の学習でも意識的かつ積極的に扱っていくことが望まれる。

話や文章に含まれている情報の関係を捉えたり、自分のもつ情報を整理して、その関係を明確に示したりすることは、話や文章を正確に理解し、適切に表現することにつながるが、その際に指標となるのが「文型」である。文型を意識することで、文章内容として収集した情報を整理しやすくなるし、実際に文章として展開しやすくなる。

そこで本小論では、「書くこと」の学習指導において「情報の扱い方に関する事項」をどのように扱っていくべきか、低・中・高の学年段階ごとに実際の学習活動を想定し、「文型」に着目して述べていくこととする。

2. 身近な事物を比較しながら書く（低学年）

低学年における情報の扱い方に関する事項は、「共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること」とされている。低学年の「書くこと」の学習指導といえ、自己の経験を時系列にそって書

くことや、作成の方法を手順にそって書くことなどがあげられる。これらでは、動詞述語を用いて文を構成し、順序が明確になるように文章を展開していくことが重要になる。また、生活科と関連させて、植物の観察記録を書くことも考えられるが、こちらでは色や大きさなどの各側面について主語と述語の関係によつて文を構成していくことが重要になる。

低学年で「共通」「相違」が関連する学習活動といえ、身近な事物を比較しながら書くことがあげられる。児童にとつて身近な事物の中には、「りんごと梨」のような類似した事物がいくつか見られる。そうした事物を児童自身が選び、それらを比較しながら説明する文章を書くという活動である。りんごと梨はいずれも果物で、形状は球形と共通しているが、りんごは一般的に赤色で歯ごたえがあり、梨は薄い茶色で水分が多いなど、色と食感の面では異なっている。こうした共通点や相違点を文章で書き表す際には、主語と述語の関係で文を構成しつつも、以下のような「共通」「相違」を示す文型を用いて書いていく。

＊共通…○○と△△はどちらも……です。 ……と同じ（くらい）です。 同じところは……

＊相違…○○は……ですが、△△は……です。 ……とはちがいます。 ちがうところは……

なお、「共通」「相違」を表す語句として「どちらも」「同じ」「ちがう」などがあげられるが、こうした言葉が生きるのも、主語と述語の関係について理解が図られ、主述が照応した文を構成できる力があつてこそである。

3. 理由を明確にしなが自分の考えを書く（中学年）

中学年における情報の扱い方に関する事項は、「考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること」とされている。中学年の「書くこと」の学習指導といえ、事例をあげながら説明文を書くこと、収集した情報をあげながら報告文を書くことなどがあげられる。また、自分の考えとその理由をあげながら初歩的な

意見文を書くことも考えられる。これらでは、説明・報告・意見の中心的内容を明確にしながら、それを支える事例や理由を明示し、それらをもとに内容のまとまりによって段落を構成し、段落相互の関係に注意して文章を構成していくことが重要となる。

中学年で「理由」が関連する学習活動といえ、自分の立場を明確にし、理由を示しながら自分の考えを書くことがあげられる。児童にとって身近な話題の中には、「夏休みに行くなら、海水浴がいいかキャンプがいいか」など、AかBか立場が分かれるものがいくつかみられる。こうした話題について、児童自身が自己の立場を選び、理由をあげながら自分の考えを書くという活動である。海水浴とキャンプのどちらを選ぶにしても児童なりにその理由を複数あげることができるだろう。自分の考えの理由を文章で書き表す際には、自分の考えを先に示し、続けて次のような文型を用いて書くこととなる。

＊ ～からだ（である・です）。 ～ためだ（である・です）。

＊ なぜかという／その理由は、～からだ（である・です）。

＊ その理由は二つある（あります）。一つめは、～からだ（である・です）。
 なお、児童の作文には理由を表す表現の不具合がよく見られ、その出現率は中学年で高い傾向がある。また、理由述べを行う際には、書き出しと文末で「なぜかという／からだ」のように形式上の対応を図るだけでなく、先行部の主張に対する理由を一文にまとめ、理由以外の要素を含めないようにするなど注意すべき点が多い。理由を表す文の構成については、作文指導と並行して文法指導として扱う必要があるだろう。

4. 説得力のある意見を書く（高学年）

高学年における情報の扱い方に関する事項は、「原因と結果など情報と情報との関係について理解すること」とされている。また、言葉の特徴や使い方に関する事項には、「思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使う」とされており、思考に関わる語句として、論理関係を表す接

続表現、思考・判断を表す動詞や文末表現などのほかに、比較や因果関係を表す文型もあげられている。こうしてみると、高学年では「原因と結果」をはじめとして、ここまで扱ってきた「比較」「対比」「考えと理由・例示」などを情報と情報との関係として含めつつも、接続表現や思考・判断の形式も関連づけて扱っていくものと、読むことができよう。

高学年の「書くこと」の学習指導といえ、自己の経験や収集した情報を根拠としながら、説得力の高い報告文や意見文を書くことが考えられる。これらでは、情報を引用したり図表やグラフを用いたりして説明や意見の根拠とし、事実と感想、意見を区別して文章を展開していくことが重要となる。こうした事項が関連する学習活動といえ、やはり根拠を明確にしながらか説得力のある意見文を書くことであろう。書籍や資料などから収集した情報を根拠として示す場合には、引用であることを明示しなくてはならないし、自分の考え・意見は事実と区別して明確に示さなくてはならない。また、説得力をもたせるために、予想される反論とそれに対する考えを述べることも考えられる。これらを文章で書き表す際には、次のような文型を用いて書くことになる。

＊ 引用… ～には、「……」と書かれている。 ～によると、……という／とのことだ。

＊ 主張… ～と思う／考える。 ～べきだ／しなければならない。 ～のではないか。

＊ 譲歩… 確かに～（かもしれない）。しかし、……。

なお、「主張」を表す語句については、「思う」と「考える」の違い、「～のではないか」の意味合いなど、意味や機能について注記が必要となる。こうした内容を小学校段階でどこまで扱うかについては別稿で論じたい。

文型は文・文章を形成する「型」であるとともに、思考を展開する「枠組み」でもある。「書くこと」にしても「読むこと」にしても、文型に着目することで理解・表現が深められてくるものといえよう。

実践 レポート



愛知県刈谷市立住吉小学校教諭

吉牟田幸子

作者を見つめ、 豊かに表現する児童 —南吉の世界を語ろう—

1 主題設定の理由

ハッピーエンドの話を多く読んできた子どもたちにとって、『ごんぎつね』は、ごんが命を落とす瞬間に兵十に思いが伝わるという衝撃的な話である。また、情景から登場人物の気持ちを探らせる表現が数多くある。作者の新美南吉は、近隣の半田市や安城市を舞台にした作品や、自分が幼少期に体験したことを作品に描いており、作品から作者を想像したり、逆に作者を知ることによって作品のすばらしさを実感できたりする。

子どもたちに『ごんぎつね』のすばらしさに気づかせるとともに、南吉作品のもつテーマを想像しながら読む読書のおもしろさも知ってほしい。さらに、本を紹介しながらテーマを語るブックトークの力もつけてほしい。そんな願いを込めて、本主題を設定した。

2 研究の仮説

研究主題にせまるために次の仮説を立てた。

- ①南吉作品のテーマを考えさせるブックトークを教師が行い、教材の読みと並行して読書を位置づければ、児童は教材を読むときにも作者を意識して読むであろう。
- ②ブックトークを目的とした単元構想を仕組み、学習計画を示せば、児童は目的に向かって意欲的に教材や南吉の本を読むであろう。

③ブックトークの手順がわかるワークシートを与え、グループで聞き合う場面を作れば、児童は引用・要約・構成の仕方がわかり、話す力・聞く力が育つであろう。

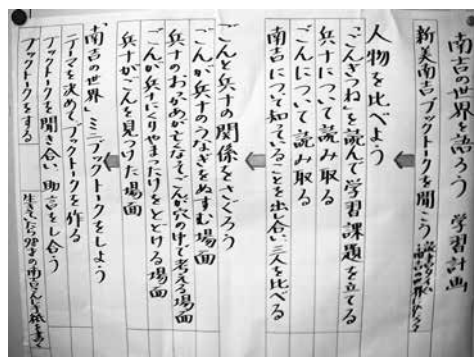
3 授業の実際

(1)ブックトークを聞いて南吉作品を読み始める子どもたち

市の中央図書館と本校図書館より百冊以上の南吉の本を集めて、その中から、「半田の風景」「母を亡くしたさびしさ」「少年の思い出」「悪い心がよい心になる」の四つのテーマでブックトークを行った。子どもたちは「こんな近くにすごい作家がいたんだ」と驚き、「続きを早く読みたい」と、ブックトークが終わってすぐ本に飛びついた。ブックトーク後の感想には、児童Aは、「南吉さんは、きつねが好きだと思う。きつねの話が多い」、児童Bは、「本をあまり読まないけど、本を読んで南吉さんのことを知りたくなった」と書いた。単元初めの教師によるブックトークは、南吉ブームをもたらし、作者を見つめるきっかけとなった。

(2)学習計画を立て、ブックトークをするという目標をもつ子どもたち

ブックトークの翌日、子どもたちに「南吉さんについてもっと知りたくなったかな?」ときくと、子どもたちは大きくうなずいて、



「本をいっぱい読んでみたい」と答えた。「南吉さんの勉強をしかりやっから、みんなも南吉さんの作品のテーマを一つ見つけ

て、ブックトークをしてみようか」と投げかけると、子どもたちは「今は無理だけど、やってみたい気もある」と答えた。「じゃあ、その目的に向かってどんなことをしたらいいと思う?」ときくと、「『ごんぎつね』をしっかりと読んでみんなで話し合う」「南吉さんの本を読んで特徴を見つける」「『ごんぎつね』にも南吉さんの思いが隠されているかもしれない」などと答えた。そこで、単元名を「南吉の世界を語ろう」と決め、学習計画を立てた。

(3) 南吉と登場人物の共通点を見つける子どもたち

『ごんぎつね』で人物の関係を読ませるにあたり、先に人物の特徴を捉えさせることが、より深い読みにつながると考えた。また、作者の特徴も同時に捉えさせれば『ごんぎつね』

を読む際に、南吉作品のテーマを予想するだろうと考えた。そこで、兵十・ごん・南吉の特徴を本文と読んだ本から見つけてノートに書くよう伝えた。初めに兵十の特徴について書かせたところ、児童Aは「『赤いさつまいもみたいな顔』から、いつも元気な顔をしている」と、文中の言葉から特徴を読み取ることができた。次に南吉について書かせると、児童Aは、「川」という話を読んだことで、「南吉さんが住んでいたところは川のきれいなところ」ということを想像した。「今、南吉記念館に行くと彼岸花がたくさん咲いているよ」と伝えると、翌日の秋分の日、児童Aは母親にお願いして、南吉記念館・南吉の生家に出かけて写真を撮り、画用紙にまとめたきた。それを廊下に設けた「南吉コーナー」に掲示すると、刺激を受けて記念館に行く子が出てきた。また、児童Aは、これまで、発言することがなかったが、南吉についての「仲間読み」(クラス全体で話し合う読み)で「南吉さんのお父さんは畳屋で、畳を作っているところが、兵十が縄をなっているところに似ていると思いました。お母さんは下駄屋で、『狐』という本に出てくる下駄屋にそっくりでした」と発言し、他の児童から、「南吉さんの両親の仕事もお話と関係あるんだね」と言われ、うれしそうだった。

児童Bは兵十についての「一人読み」(自分

一人で読んでノートにメモする読み)では、「母と二人暮らしで貧しかった」と書いてただけだった。しかし、「仲間読み」で「兵十もごんも母がいなくて『ひとりぼっち』でさびしかった」と話し合われたことから、南吉についての「仲間読み」で「南吉さんも母を亡くしてさびしかったことが兵十とごんと似ている」と発言した。

(4) 南吉作品のテーマを考えながら登場人物の関係を探る子どもたち

① ごんは兵十のことが嫌い?

ごんがいたずらをする第一場面の「仲間読み」では、ある児童が「ごんも兵十もお互いに嫌い」と発言したことから、ごんが兵十のことを嫌いか嫌いでないかで盛り上がった。

その話し合いに児童Aも加わり、「三日間の雨でいたずらができなかったから、たまたまいた兵十にいたずらをしただけ」と答えた。「仲間読み」後の感想には「ごんも兵十もお互い嫌いではない」と書いた。

児童Bは、「一人読み」ではまだノートに書くことが少なかったが、「兵十が追っかけてこず、ごんがほっとしたこと」「うなぎを『草の葉の上にのせておきました』と書いてあるから、そんなに悪いきつねではない」と、二回発言することができた。「仲間読み」後の感想にも「ごんは、いたずらがしたいだけ。兵十のことは嫌いではない」と書いた。

子どもたちは、一人の発言から、課題「ごんと兵十の関係をさぐるう」を、文中の言葉を根拠に考えられるようになっていった。

② いつ、ごんはいたずらを後悔するようになったの？

児童Bが、「先生、用水の土手に彼岸花が咲いていて、『ごんぎつね』の矢勝川^{やかつが}みたいだったよ」と、真っ赤な彼岸花を持ってきた。その彼岸花を花瓶に挿して教卓に置いて、第二場面の「一人読み」と「仲間読み」を行った。ここでは、「彼岸花が踏み折られているところからせつなさが伝わる」と情景から読み取ったり、「赤いさつまいものようだった兵十がしおれていたように見えたと感じたのは、ごん」と、誰の目で見えたことが書かれてあるのかを考えたりするようになった。

③ ごんは兵十の気持ちを考えられるまで心が成長したんだ

教卓に栗と松茸をかためて置いて、ごんの気配を感じさせる雰囲気にしてから第三場面の「一人読み」を行った。

児童Bは、『これはしまった』のごんの言葉から、兵十に悲しい思いをさせたくなかった』と書いた。「仲間読み」でも、『ごんは、人の気持ちが考えられるようになった』と発言したことから、『ごんぎつね』も、南吉作品のテーマ『悪い心がよい心になる』話なんだ』とつぶやいた。児童Bは、授業後の感

想に、『ひとりぼっち』の『ぼっち』があると、ただ一人で、留守番するのとは違って、誰もいないという意味』と、自分の発言に補足していた。

④ ごんは、いったいどれぐらいの時間兵十を待っていたのだろう？

第四・五場面では、児童Aが『松虫』から秋の夜だとわかる』というところを見つけたのははじめ、『月のいいばん』から『満月』や『ごんがぶらぶら遊びに行きたくなるような日』と、子どもたちは、情景描写に人物の気持ちを表現する南吉の特徴をすっかり捉えていた。ここで、問題になったのが、第四場面と第五場面の切れ目が、ごんがお経を聞いている途中にあることだった。「他の場面は、日にちや場所が変わるのに、なぜ、ここで切れるのか」と、ある児童が「一人読み」に書いていたことを取り上げて質問すると、「お経は、一時間以上」「うん、それぐらい長い」と、二人の児童が経験をもとに答えた。それを聞いて、他の子どもたちから、「そんなに長い間、ごんは、兵十を待っていたんだ」と驚きの声があがった。「どうして待っていたのだろう」と教師がきくと、「兵十と加助がさつき話していた『変なこと』の続きが気になった」「おれが待っているのを気づいてほしい」「兵十のかげぼうしをふみふみ」ってある。見つからないようにしていたのかなあ」「それだ

と、自分に気づいてほしくないんじゃない」と、話が盛り上がった。そこで、『かげぼうしをふみふみ』っていったいどれぐらいの距離かなあ』と問うと、『ええ、めっちゃ近い』と具体的に想像をすることができた。「先生が子どもの時、お父さんの影を踏みながらついていたことがあるよ」と話すと、『ごんは、兵十のこと大好きになったんだ』と、子どもたちは納得した表情で答えていた。

⑤ 青い色は、悲しみの色

物語のクライマックスの第六場面の「仲間読み」で、児童Aも児童Bも、何度も何度も挙手をして発言した。その内容は、文中の言葉や友達の見えから考えたものだけに留まらず、ブックトークや読書で得た南吉作品のテーマに基づいたものもあった。

第六場面「ごんと兵十の関係をさぐるう」授業記録

S1…「その明るる日」は、ごんが兵十と加助についていった翌日。

児童B…「うら口から、こっそり」というのは、ばれたらおしまいというごんの気持ち。

S2…神様だって思われているんだから、ごんはどきどきだったと思う。

S3…「土間にくりがためて」から、投げ入れたのでなくそっと置いたことがわかる。兵十への思いやりだと思う。

S4…兵十は撃ってから、ごんの優しさに気づいた。

児童A…兵十は、このとき初めてごんの気持ちがわかったのだと思う。

S5…「火なわじゅうをはたりと、取り落とししました」から、悲しい気持ちが伝わる。

S6…兵十が後悔していることがわかる。

児童A…ごんがうなずいたのは、やっと気づいてくれてうれしい気持ち。

S7…死んだままうなずいた。どうしても伝えなくて最後の力を振り絞った。

S8…「青いけむりが、まだ、つつ口から細く出ていました」は、細いんだから最期のごんの気持ち。

児童B…はくは違って、兵十の悲しみだと思う。兵十も南吉さんと同じで、どんどん周りから人が

いなくなつて、自分のためにしてくれたごんまで撃ってしまった。いちばん悲しいのは、兵十。

児童A…私は、ごんの魂だと思う。やっと気づいてもらったから。

S9…前に先生が読んでくれた『まつすきなおじいさんのほなし』で、おじいさんが亡くなった時、おじいさんの松でできた花火の色が青だった。だから、青は、南吉さんにとって魂の色。

S10…南吉さんにとって青は、別れの色かもしれない。おじいさんと松の本当の別れだったから。

T…みんな、よく考えたね。南吉さんは、なんでこんな終わり方にしたのだろう。

児童B…母が亡くなってひとりぼっちだった。すぐひとりぼっちにこたわっている。兵十も本当のひとりぼっちになった。

S11…悲しみを伝えたかった。こんなに悲しいことがあるんだよ。

児童Aは、授業感想に「私は『青いけむり』

は、ごんの気持ちのうれしいことや悲しいことが交ざって、細くてせつないことを表していると思いました」と書いた。

授業後「国語が好きになった子」ときくと、迷うことなく全員の手がびんと挙がった。教師にとってうれしい瞬間だった。

(5) 南吉を語るブックトークをする子どもたち

① 南吉作品のテーマはいくつもある

子どもたちが行うブックトークは、全員ががんばればやりきれそうな長さを考えて、三冊の本を一人三分から五分で紹介することとした。まず、別の作家のブックトークを教師がして見せた。その後、ブックトークについての資料を渡して説明をした。その際、文を抜き出す引用の仕方・あらすじを伝える要約の仕方について具体的に説明をした。そして、「南吉さんの本はどんな言葉で紹介できるかな？」と質問した。子どもたちは、「牛」「きつね」「お母さん」などをあげた。児童Bは、「南吉さんの生きた時代の明かり」というテーマを考え、「赤いろうそく」「おじいさんのランプ」と詩の『破れたる洋燈』の三つを紹介することにした。児童Aは、「鳥のすばらしさ」とテーマを決めてワークシートを作ってきたので、「南吉さんは、一年生の時に『ひよめ、ひよめ』と歌いながら学校に通っていたんだよ。『一ねんせいたちとひよめ』の

お話を読んでみて」と話をした。

② いいよブックトーク発表会

発表会は、四人グループで行った。児童Aも児童Bもワークシートを見ないで、堂々とすることができた。児童Aは、南吉の小学生時代、青年時代の話を間に挟みながら、本を紹介し、また、歌も気持ちよく歌うことができた。児童Bは、詩の意味をわかりやすく説明し、みんなに語るようにブックトークをした。

単元の感想に、児童Bは「読書が好きではなかったけど、南吉さんの本を読んで好きになった」と書いた。南吉作品にどっぷりと浸らせて語らせたことで、二人の児童の大きな成長がうかがえる。改めて、南吉作品の偉大さを感じさせられた。

4 研究の成果

児童Aは、五十冊もの本を、児童Bは、二十冊以上南吉の本を読むことができた。また、南吉作品のテーマを想像して読み進めるとともに、『ごんぎつね』では、叙述に即した読みや友達の発言から考えた読みを行い、場面を追うごとに発言が増えていった。

子どもによるブックトークは、必要なところを抜き出して読んだり、あらすじをうまく説明したりして、テーマを伝えることができた。さらに、話をしっかり構成しており、構成力が身についたことも感じた。

教育現場のユニバーサルデザイン

「UDデジタル教科書体」と合理的配慮



株式会社モリサワ
公共ビジネス推進課
たかた
高田 裕美

教材・テストのユニバーサルデザイン

「これ、見てくださいよ！」デイスレクシア（読み書き障害）のご子息をもつお母さんからB4判の紙を数枚纏めて二つ折りにした束を見せられた。よくある中学一年生の国語の中間テスト問題だった。行書で書かれた国語のタイトルに、横には10ポイントくらいの小さな文字で注意事項が書かれ、そして扉を開くと一行に48字がびっしりと詰まった細い教科書体で縦に組まれた本文が行間も狭く数ページも並び、上下開きかと思つて裏を返すと上下が反対向きになった。学校の予算の問題で今も輪転機印刷しているというその書体はどこどころかすれているので、近眼で老眼の私は思わず眼鏡を外し、どちらのページが先なのかを確かめた。

「これでは息子はテストを読むのに相当な時間がかかってしまう。眼で追うのが精いっぱい、理解し考える時間が取れない。それにデイスレクシアは読み上げの配慮がないと問題が読めない子もいるんです。これで能力を評価してしまうんですよ！」デイスレクシアは会話や音声理解はまったく問題ないが、文字や記号を見て音に変換することや、いくつかの文字を意味のある言葉に結びつけることが難しい。文字が揺れて見える、二重に見える、渦を巻いて見え

るなど、子どもによって見え方もさまざまだ。教材やテストを読みやすい書体に変える、文字サイズを大きくする、適度な行間を取るなどの配慮があれば、障害のあるなしに関わらず読むことに負担が少なくなり、先生がたも子どもたちの内容の理解度をより知ることができる。【図1】また、読み上げの配慮が必要な子たちに

次の文章を読んで、1から5の問いに答えなさい。
私が先生と知り合いになったのは鎌倉である。その時私はまだ若々しい書生であつた。暑中休暇を利用して海水浴に行った友達からぜひ来いという端書を受け取つたので、私は多少の金を工面して、出掛ける事にした。私は金の工面に二、三日を費やした。ところが私が鎌倉に着いて三日と経たないうちに、私を呼び寄せた友達は、急に国元から帰れという電報を受け取つた。電報には母が病氣だからと断つてあつたけれども友達はその信を信じなかつた。友達はかねてから国元にいる親たちに勧まない結婚を強いられていた。



次の文章を読んで、1から5の問いに答えなさい。

私が先生と知り合いになったのは鎌倉である。その時私はまだ若々しい書生であつた。暑中休暇を利用して海水浴に行った友達からぜひ来いという端書を受け取つたので、私は多少の金を工面して、出掛ける事にした。私は金の工面に二、三日を費やした。ところが私が鎌倉に着いて三日と経たないうちに、私を呼び寄せ

【図1】テストのユニバーサルデザイン（イメージサンプル）

は別室やイヤホンなどでの読み上げの配慮なしでは、その理解力を評価するのは無理だろうと思った。

文部科学省の調査で、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある小中学生は6・5%、一クラスを四十人として二・三人の割合になる。熊本大学の菊池哲平先生が「くまもと授業のユニバーサルデザイン研究会」のコラムの中で、弊社のUD（ユニバーサルデザイン）書体を授業のスライドに使用したら、「今日のスライドは見やすかった」「いつもは必要な眼鏡なしでも読めた」と感想を言ってきた学生が数人いたとのこと、ユニバーサルデザインは多数の人が意識しないまま使用しているものを少数派の人たちにとって利用しやすいように調整していくことであり、皆が読みやすい書体に変えるということはユニバーサルデザインの本質的な意味に通じるのではないかと書いてくださっている。先生がたがつくる教材やテストにおいても、多様な子どもたちへの合理的配慮に、UD書体と読みやすさを考慮した組版があることを認識してほしいと願う。

Windows 10 標準搭載

前述のスライドの話のUD書体はゴシック体だが、文字を習う段階にある子どもたちのために、ユニバーサルデザインに対応した教科書体があることをご存知だろうか？

昨 autumn に Windows 10 Fall Creators Update で標準搭載された「UDデジタル教科書体」である。この書体は十年前に、ロービジョン（弱視）の子どもたちが一般の教科書体を読むのが困難であることを知り、その子どもたちや支援する先生がたの助けになるような、

R* 読みやすさを考慮した組版
M 読みやすさを考慮した組版
B* 読みやすさを考慮した組版
H 読みやすさを考慮した組版

*4つのウエイトからRとBが
Windows10 標準搭載となる

【図2】UDデジタル教科書体

手の動きを重視した読みやすい書体をつくれなにかとの思いから開発を始めた書体だ。【図2】また、この書体開発の過程で、ディスプレイなど学習障害のある子どもたちにも読みやすく受け入れやすいことがわかってきた。

ロービジョンの子は一般の教科書体の細い部分が見えにくく、線に強弱があることでどこが線の骨格（芯）なのかを捉えにくい。また学習障害のある子の中には、「はらい」や「はね」の鋭さや楷書特有の筆の入りやおさえが気になって読めないということもある。そこで読みやすいとされていたのが、均一の太さでエレメントのシンブルなゴシック体や丸ゴシック体だ。そのため、今まで紙の拡大教科書にはロービジョンの配慮として、ゴシック体・丸ゴシック体が多く代用されていた。

ただし、これらのデザイン書体は手書きからなる書体ではないので、学校で教える画数や形状に即していないことも多く、初めて文字を学ぶ子どもたちには適さない書体である。「UDデジタル教科書体」は両者の欠点を補うべく、手の動きを重視し、一画一画の書

山追令心さ

一般的な教科書体
筆書きの線の太さに強弱があり見えにくい

山追令心さ

ゴシック体
教育現場に準じた形状でなく教えにくい



山追令心さ

UDデジタル教科書体
学習指導要領に準じた形状で、書き方の方向性を示しながらも太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）やディスレクシア（読み書き障害）に配慮したデザイン

【図3】書体による形状の違い

き方の方向性や画数を学習指導要領に照らし合わせながらも太さの強弱を抑え、とがった部分を避けた優しくシンプルなエレメントにした。【図3】

Windows 10に標準搭載はされていないが、二〇二〇年から実施される小学校の外国語科での欧文の読み書き指導に合わせて、文科省教材の形状に沿った「UDデジタル教科書体」と混植可能な新欧文（正体・イタリック体・書き学習用）をリリースした。また小中学校での算数や理科に必要な単位記号などを集めた特殊な学習用記号もラインナップに加えた。【図4】

ICT教育の導入により可能になる合理的配慮

二〇一六年より障害者差別解消法が施行され、教育現場でも「合理的配慮」や「インクルーシブ教育」がキーワードとして挙げられるようになった。「UDデジタル教科書体」は、多様な子どもたちが分け隔てなく教育を受けられる書体提供を目標に制作した。教育現場にICT教育が急速に導入されているこの時代に、Windows 10に標準搭載されたこの書体を大いに活用してほしい。「UDデジタル教科書体」は、従来の一般的な教科書体に比べて、どの子どもたちにとっても、離れた席で見る電子黒板でも太くはつきりと見やすく、下からバックライトがあたったタブレット表示でも潰れずに読みやすいと感じてもらえるだろう。実際に、この書体は、大阪医科大学LDセンターの奥村智人先生のご研究によるディスレクシアのエビデンス（科学的根拠）、慶應義塾大学の中野泰志教授のご協

R English^{*} HRabdq18
M English^{*} HRabdq18
B English^{*} HRabdq18
H English^{*} HRabdq18

R English^{*} HRabdq18
M English^{*} HRabdq18
B English^{*} HRabdq18
H English^{*} HRabdq18

R English^{*} HRabdq18
* | (縦線のキー: Shift+¥) で4線 (≡) 表示可能

R kg g mg a ha Ω H₂ // xyz
M kg g mg a ha Ω H₂ // xyz

【図4】UDデジタル教科書体のラインナップ

力によるロービジョン（弱視）のエビデンスをも取得している。また東京大学大学院の朱心茹氏による新欧文（正体）の検証でも一般・ディスレクシアともにより結果が上がっている。

どの子どもたちにも同じように学ぶ権利がある。ICT教育が推奨され、デジタル教科書が教科書との一部併用を正式に認められたことで、技術的には一人一人の子どもたちに合わせて色々な配慮が可能になるはずだ。教科書や教材の文字が読みにくかった子どもたちは自分にとって読みやすい書体に変えることができる、白い紙に黒の文字が眩しい子は黒地の背景に白い文字で読むことができる、文字が小さくて見えないなら文字を読みやすい大きさに変えられる、教科書を読むことが困難であれば読んでいる部分のライン表示をしながら音声読み上げの機能を使える、板書するのが精いっぱい先生の話が集中して聞けないならタブレットに黒板の写真を取り込み先生の話をしっかり聞くことができる、先生が示すページを見つけることが難しいのであれば数字を打ち込んで簡単にページを探すことができるなど。これら技術の活用は、将来、多様な子どもたちを教える先生がたの負担も少なくすることに繋がるはずだ。

公共団体向けUDフォントプラン

私たちは書体メーカとして、教育現場で何ができるのかと微力ながら日々模索している。先生がたが伝えやすく、教えやすく、多様な子どもたちにとって読みやすい、さまざまなUDフォントを教育委員会や学校単位で安価で提供する「公共団体向けUDフォントプラン」というサービスも始まった。「UDデジタル教科書体」のすべ

てのラインナップを含む43書体が搭載されている。近年、ICT教育の活用に躍進的な奈良県教育委員会が真っ先に取り入れ、「教材やテストに使用したら子どもたちから読みやすいとの声が上がった」「今までの書体と比較して読みのスピードが上がり、子どもたちの理解力が深まった」などの声が先生がたから続々と上がってきているようだ。

「子どもの成長は待ってくれないんです。」冒頭で中間テストを見せてくれたお母さんが静かに怒っていた。ご子息が小学校の頃から先生がたにディスレクシアという障害と配慮を理解してもらうためにたくさん努力をしてきたが、可能な範囲にあると思われる配慮をなかなか導入してもらえない学校の現状もあるという。

ICT技術だけでなく多くの人々の価値観においてインクルーシブ教育の理解が一刻も早く進むことを心から願うとともに、ユニバーサルデザインの理念を多くの人に理解していただき「UDデジタル教科書体」を含むUDフォントの活用が合理的配慮のひとつとなることを示せるように、タイプデザイナーの経験を活かしてこれからも邁進していきたい。

＊1 文字デザインでは、横線、縦線、はらい、はね、点などの骨格に肉づけされた

デザイン要素をエレメントという

＊2 和文と欧文、または二つ以上の書体が混ざった版を組むこと

※本コラムの本文は、UDデジタル教科書体を使用しています。

株式会社タイバンクでタイプデザイナーとして三十二年勤務。DTPをはじめテロップ、成分表示、新聞など、さまざまな分野の書体を手掛ける。十数年前から「BIZ UD明朝／ゴシック」の元となる「TBUD書体シリーズ」「UDデジタル教科書体」のチーフデザイナーとして企画・制作を経て、株式会社モリサワの教育現場での書体の重要性や役割を推進する課に新配属。



第16回

まもなく締め切り!!

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2018年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2018年7月1日 ~ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催 / 教育出版 ◎協賛 / 日本環境教育学会
◎後援 / 環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



地きゅうをまもっている木

この絵は、人間が作り出したわるい空気を、木がきれいな空気にかえているところをそうぞうしてかきました。大きな木の中に、うちゅうがあり、そして、わたしたちがすむ地きゅうがあります。わるい空気は、水を多くふくませてかきました。

小学国語通信 ことばだより (2018年 秋号) 2018年8月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

電話 03-3238-6864 (内容について)

03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」の通り、配付を許可されているものです。